

# 2022年度 職能委員会 だより

## Contents

---

- P02 合同職能集会・合同職能委員会
- P03-04 保健師職能委員会報告
- P05-07 助産師職能委員会報告
- P08-09 看護師職能委員会Ⅰ報告
- P10-11 看護師職能委員会Ⅱ報告
- P12 令和5年度職能委員会企画研修・交流会

【発行】公益社団法人福岡県看護協会 職能委員会  
【発行日】令和5年5月31日

〒812-0054  
福岡市東区馬出4-10-1 ナースプラザ福岡  
TEL:092-631-1141  
<https://www.fukuoka-kango.or.jp>



# 令和4年度 合同職能集会

## ● 働き続けられるためのメンタルサポート～自分らしく働くためのコツ～

日程 令和4年6月22日(水) 会場 福岡サンパレス・コンサートホール

講師 産業医/公認心理師/心理学講師 上谷 実礼(うえたに みれい)先生

企画・運営 看護師職能委員会 I



新型コロナウイルス感染症拡大の影響で研修開催もままならない状況でしたが、3年ぶりに対面で合同職能集会を開催することができました。今回は産業医・公認心理師・心理学講師としてご活躍されている上谷実礼先生をお迎えし、アドラー心理学に基づいたお話で「働き続けられるためのメンタルサポート～自分らしく働くためのコツ～」というテーマでご講演をいただきました。

コロナ禍で日常生活は大きく変化し、行動自粛が続く中で、私たち看護職の働く環境も様々な影響を受けました。看護職は、それぞれの立場で地域住民の健康を守るために最前線で感染症対応を真摯に担ってまいりました。先が見えない状況が続き、必死に頑張っていた仲間の中には心身ともに疲れて離職をする人たちが増えてきています。

講演では、『私たち看護職自身が今の自分をありのままに受け入れ、自分自身の頑張りを肯定的に受けとめることが大切』『自分らしく、無理なく働き続けるためのヒント』を学び、気持ちが少し楽になりました。

人生100年、地域包括ケアシステムが促進される中、我々看護職に対する期待はますます高まっています。今後も各職能の強みを発揮しながら、互いを認め合い、連携・協働してまいりましょう。

# 令和4年度 合同職能委員会

## ● 看護職能がつながる「母子のための地域包括ケアシステム」の今～医療的ケア児の個別的な支援のための絆、協働～ ハイブリッド開催



日程 令和4年12月17日(土) 担当 助産師職能委員会

参加者 29名 (役員5名、保健師職能委員2名、助産師職能委員7名、看護師職能I委員9名、看護師職能II委員6名)

福岡県看護協会の重点事業である「地域包括ケア実現のための看護提供体制の充実」のため、4職能の職務を相互に理解し、地域包括ケアにおける職能及び看護協会の役割について話し合い、交流を図ることを目的として開催しました。

テーマは、**看護職能がつながる「母子のための地域包括ケアシステム」の今～医療的ケア児の個別的な支援のための絆、協働～**。具体的介入事例や課題、困難を感じる点など、活発な意見交換が行われました。

### 発言より抜粋

- ◆ 病院・地域ともに医療的ケア児支援への思いはあるが、病院は地域にどうつないだらよいか、もどかしい思いをしているのが現状。一つ一つの事例において情報提供書だけではなく電話で話すなど、つながりをもつことが有効。なによりみんなで患者・家族を支えることが大切である。
- ◆ 現在の支援では行き届いていない隙間をサポートする民間(例、NPO)の動きも含めて、情報を共有し、在宅でのちょっとした困りごとに目を向けサポートすることが大切。
- ◆ 医療的ケア児が増加する中、病院から地域(在宅)につなげるため、自施設では両親を含めた退院前多職種連携会議を行い、両親のニーズに合わせたサポートを具体化できているとの医療機関からの報告がありました。  
病院と行政・地域と課題の共有は難しいが、お互いの働きを知ることが大切であり、今後はこの仕組みづくりが求められている。

### まとめ

仕組みが大切、と言うだけで終わるのではなく、『どうしたら仕組みを作ることができるか』を考えていくことが大切だと改めて認識しました。

各職能の役割は少しずつ違うかもしれませんが、「対象者の生活・人生をどう支えるか」を目指しています。そのために「自分たちに何ができるか」を考え、行動することが重要であるということを改めて共有しました。





# 保健師職能委員会

## はじめに

委員長 石井 靖子

保健師職能委員会では、健康危機管理における人材育成、地域包括ケアシステム構築のための地域連携の強化を目標に取り組んできました。新型コロナウイルス感染症対応に追われながらも、毎月委員会を開催し、福岡県の委託事業である「新型コロナウイルス感染症等業務にかかる研修(IHEAT研修)」、委員会主催の交流会を企画・運営しました。IHEAT研修は、新型コロナウイルス感染症感染拡大によりハイブリット形式での開催に変更して実施。交流会に産業保健師の講師をお招きし、少人数ながら産業保健師、学生、教員、行政保健師、と様々な立場の保健師が2年越しに集いました。

この3年間、コロナ禍で人との交流が限られ、活動が制限されてきましたが、令和5年度は、IHEAT研修、新任期交流会等、国の動きを踏まえた人材育成に重点を置きながら取り組んでいきたいと思っています。

## ● 新型コロナウイルス感染症等業務に係る研修 (IHEAT研修) ハイブリット開催

**日程** 令和4年8月6日(土) 10:00~15:40 **参加者** 63名

講義

- 「新型コロナウイルス感染症の最新の知見」  
飯塚病院感染症科 部長 医学博士 的野 多加志先生

講義・実技

- 「感染防護と防護服着脱について」  
飯塚病院医療安全推進室 感染管理認定看護師 山下 智雅先生

講義

- 「保健所における新型コロナウイルス感染症対応と応援者としての心構え」  
自治医科大学看護学部 学部長 教授 春山 早苗先生

動画視聴

- 「積極的疫学調査の手順について」

講義

- 「積極的疫学調査の実際」  
福岡県看護協会保健師職能委員会 委員長 石井 靖子



福岡県では、新型コロナウイルス感染症への対応として、厚生労働省の動きを踏まえ、感染拡大時、保健所で保健師などの専門職が不足した場合の支援協力としてIHEAT※を活用しており、令和3年度よりIHEAT研修を開催しています。令和4年度は福岡県から委託を受け、福岡県看護協会保健師職能委員会がこの研修を実施しました。

感染状況を鑑みハイブリット方式での開催に変更し、IHEAT登録者や登録予定者、保健所や市町村の保健師等63名が参加しました。

最初に飯塚病院の的野先生に、COVID-19の特徴や治療薬、感染対策とワクチン等について最新の知見をお話いただき、ワクチンの効果についても分かりやすく説明していただきました。

続いて、飯塚病院の山下先生に、感染防護と防護服着脱についてお話しいただいた後、先生のご指導の下、実際に参加者1名が防護服着脱を体験しました。

午後からは、自治医科大学の春山先生に、『業務がひっ迫している保健所に応援に行く際、保健所側の状況を理解し、保健所主体の原則や

保健所職員等への配慮ある行動』や、『指示待ちではなく自分で考えて動くこと』など応援者の心構えのポイントをご講演いただきました。

最後に、積極的疫学調査の手順についての動画を視聴後、実際に保健所で使用している調査票を基に、調査時間取りや記入のポイントについて石井保健師職能委員長が解説を行いました。

終了後のアンケートでは、理解できた・ほぼ理解できたとの回答や、今後の業務に活かせるとの回答が95%を超えており、大変有意義な研修だったとの感想を多くの方からいただきました。

新型コロナウイルス感染症の確認から3年が経過し、これまでに経験したことがない、保健所業務のひっ迫や市民生活の制限などを経験しました。令和5年5月8日からは感染症法の分類が5類へ移行され、少しずつ以前の日常に戻りつつありますが、今後も、新興感染症の拡大に備えて研修を行ってまいります。

※IHEAT(アイヒート):新型コロナウイルス感染症等に係る対応人材 Infectious disease Health Emergency Assistance Teamの略で、保健所での積極的疫学調査等の業務を支援する専門職を対象とした人材バンクの登録者



## ● 保健師職能委員会企画交流会 「企業の健康づくり戦略からみる、健康なまちづくり戦略」

**講師** アサヒビールグループジャパン株式会社 健康支援センター 住徳 松子先生

**日程** 令和4年11月12日(土) 13:00～15:30 **受講者** 11名(保健師7名、看護師3名、学生1名)



今回の講演では、住徳先生が統括保健師として所属する会社の本社へ配属された際の現状や課題に対し、企業側のニーズが高いものに対応したことで保健師の評価や信頼性を高め、産業保健体制を確立させたご経験や、本社での産業保健活動などをご紹介いただきました。具体例として社員教育の実施や労働災害時への対応、困難解決事例であった中途障害者の雇用について保健師がかかわり障害者枠として再雇用に至った経緯などを挙げられました。

講演を通して産業保健活動は企業規模により活動内容や優先度が異なるため、企業の成熟度を把握し、タイミングを計って戦略的に働きかける必要があることを学びました。

参加者は、学生やこれから産業看護職を目指す方、行政保健師など経験や活動の場は様々でしたが、先生から統括保健師としての資質や目指すところ等、熱い思いを強く感じていました。今回はコロナ渦の影響でリモートでの開催となりましたが、次回をご来福いただき、たくさんの方に熱い思いを届けていただきたいと思います。

## ● 意見交換会 in 久留米 親子の幸せな環境づくりを目指す地域包括ケアシステム構築の取り組み

**日程** 令和4年12月10日(土) 11:00～12:30 **場所** 久留米大学医学部看護学科

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を踏まえ、交流会から予定を変更し、大学の先生方と保健師職能委員で「親子の幸せな環境づくりを目指す地域包括ケアシステム構築の取り組み」をテーマに意見交換を行いました。

はじめに、賀村悦子委員(大野城市保健師・令和4年度時点)より、担当課の目標である「すべての子どもが健やかに育つ社会をめざして」に向かって「親子の安心」をキーワードに取り組んできた活動について話題提供がありました。①ハイリスク者の事例検討会議を立ちあげ、関係機関を巻き込みながら5年間で48回の会議を開催。地域課題を共有した顔の見えるネットワークづくりに取り組んだこと、②ポピュレーションアプローチを進めていくために、8年かけて乳幼児健診を個別健診から集団健診へ変えたこと、③妊娠期から子育て期にかけて切れ目のない支援を行うために市の組織改革にも携わった事業展開の3点が報告されました。

この報告をもとに、久留米大学医学部看護学科の重松由佳子教授、福岡女学院看護大学の山田小織准教授から助言をいただき、保健師職能委員とで意見交換を行いました。

参加者からは、「常に住民目線で、地域の関係者を巻き込みながら取り組んでこられた姿は情熱的で、保健師の軸となるものを改めて

教えてもらった。」「配属部署で目標(目指す姿)を立て軸がぶれないよう取り組んできたことが、組織として継続した取り組みにつながっている。」「①のハイリスク者の事例検討会の取り組みは、ネットワークづくりとしてよかったのではないか。」といった声があり、改めて保健師活動の根幹について共有しました。

また、「人材育成も視野に入れて取り組んだところが素晴らしい。このような保健師の取り組みをどう次世代へつなげていくかが課題と感じている。」という意見もあり、現任教育の在り方についても意見交換が行われました。

交流会は開催できませんでしたが、今後の保健活動への活力となる意見交換会となりました。



### 令和4年度 保健師職能委員会

- 【委員長】 石井 靖子(福岡県北筑後保健福祉環境事務所)
- 【副委員長】 山下 清香(福岡県立大学)
- 【委員】 賀村 悦子(大野城市役所)
- 山下 珠美(個人会員)
- 近藤 千穂(福岡市福祉局)
- 花田 美代子(福岡県筑紫保健福祉環境事務所)
- 刀根 奈津子(北九州市保健福祉局)
- 坂梨 めぐみ(久留米市保健所)
- 吉原 和美(福岡国際総合健診センター)





# 助産師職能委員会

## はじめに

委員長 長谷川 まどか

助産師職能委員会では、1.安全安心な妊娠・出産・育児環境のための人材育成と体制整備の推進 2.子育て世代包括ケアシステムにおける連携・ネットワークの強化を令和4年度目標に掲げ、研修会、交流会、シンポジウムを企画しました。令和4年度も新型コロナウイルス感染症を考慮し、すべての企画をオンラインで開催しましたが、withコロナ時代の研修として参加者の満足度が高い研修を実施することができました。母子を取り巻く環境は決して十分とは言えません。母子のための切れ目のない支援の充実を目指し、多職種と協働し連携を深めていきたいと思っております。

## ● 新人助産師研修 オンライン開催

助産師職能委員会では、助産基礎教育からの継続教育と臨床実践能力を高める助産師人材育成を行う目的で新人助産師研修を開催しています。新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、令和3・4年度はすべての内容をオンライン研修に変更して開催しました。

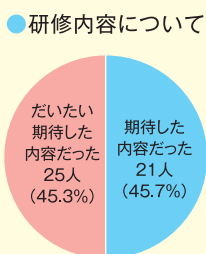
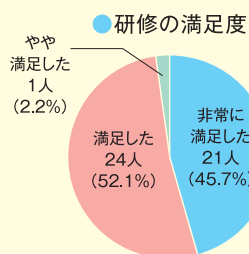
この研修は、助産師経験3年目以下の新人助産師を対象、新人助産師として必要な専門的知識や技術の習得、他施設の助産師との交流を図り、スキルとモチベーションを高める事を目標としています。

令和5年度の研修内容は下記の表のとおり、経験豊富な助産師や医師が講師をする専門的講義と、実際に手を添え分娩介助の経験ができる演習で構成し、開催する予定です。



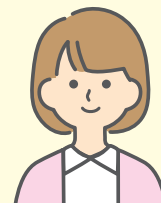
開催日(令和4年度)		研修内容
1日目	7月16日(土)	①CTG ②母体合併症 ③産科出血
2日目	7月30日(土)	①新生児のフィジカルアセスメント ②乳房管理・授乳
3日目	8月20日(土)	①妊娠期の助産診断とアセスメント ②正常分娩の助産診断とアセスメント ③分娩介助の実際(演習)
4日目	9月 2日(土)	①助産の起源 ②助産倫理・哲学

### 研修終了時アンケート



### 受講生の声

- ◆期待した以上にとても学びになった。
- ◆臨床ですぐに活かせることができる内容だった。
- ◆助産診断や分娩介助、新生児の観察など臨床で使える知識を幅広く学べた。



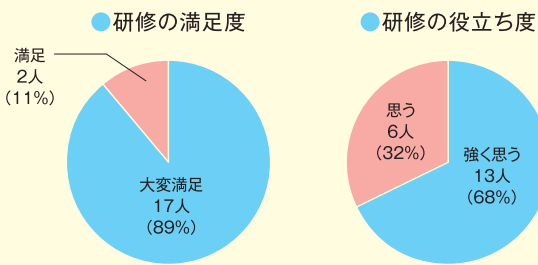
## ● 院内助産スキルアップ研修 オンライン開催

個々の助産師のクリニカルラダーのステップアップを支援し、助産専門職としての役割を社会に発信できる人材を育成するために、院内助産スキルアップ研修(全3日間)を企画しました。昨年度にひきつづき令和4年度も、オンラインで開催し、20名の方が受講しました。

開催日(令和4年度)	研修内容
1日目	5月15日(日) 助産師出向システム 母子のための地域包括ケアシステム
2日目	5月29日(日) 産後ケア プレコンセプションケア
3日目	6月11日(日) 助産師のコア・コンピテンシー 助産師のキャリア開発



### 研修終了時アンケート



### 受講生の声

- ◆ 立ち止まって深く考察する機会になった。
- ◆ 助産師になれた喜びを感じた。
- ◆ 自分自身が考えている以上に時代が変化していること、専門職としてのブラッシュアップが必要であることを痛感した。またそれと同時に未来に希望が持てた。
- ◆ 他施設との方とのグループワークの時間がしっかりと確保されていたことで、交流の機会となり、いい刺激を受けられたし学びも多かった。
- ◆ 映像を見るだけではない参加型の研修は初めてだったが、参加しやすかった。他施設の方と気持ちを共有できる楽しい時間だった。

## 産科管理者交流会 オンライン開催

**日程** 令和4年8月28日(日) 13:00～16:00

**講師** 日本赤十字九州国際看護大学 教授 倉岡 有美子先生

**講演** コロナ禍における看護管理 受講者 11名

産科管理者交流会は、管理実践能力を高めることにより、人材育成や助産能力の維持・向上を図ること、また情報交換・情報共有を行うことで周産期のネットワーク構築することを目的としています。

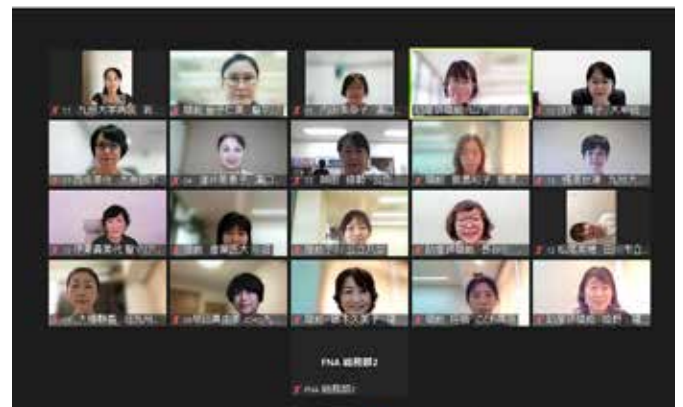
令和4年度は、令和3年の日本看護管理学会学術集会で「いいね賞」を受賞された倉岡有美子先生に、「コロナ禍における看護管理」と題して、Covid-19患者の受け入れ態勢の構築・運用プロセスと、看護師長が直面した困難についての研究結果を含め、ご講演いただきました。

参加者は総合病院から9名、クリニックから2名の計11名であり、職位は師長6名(54.5%)、副師長2名(18.2%)、看護部長1名(9.1%)、主任1名(9.1%)でした。

参加者の声として、講義に関しては「コロナ感染の段階に応じた看護管理者の対応や課題を再確認し、自分自身の管理に置き換え、不足な項目の確認ができた。また、今後の自施設の在り方の課題の参考になった」「管理者として道徳的欲求について他施設の管理者の意見を聴くことができてよかった。同じようなことで悩んでいることが知れ、取り組みを参考にしたいと思った」「研究結果に基づいた講義で現場のジレンマが良く分かった」などが挙げられました。一方、交流会に関しては、「コロナ禍の影響を受けている学生の実習や新人教育は、どの施設でも例外なく取り組みに工夫を凝らしており、その具体的内容についても大変参考になった」「Zoom研修であったので、一人一人の意見は全て拝聴することができたが、フリーな交流をとることができなかった」

「ディスカッションの時間がもう少しあるとよかった」などの意見が寄せられました。

今後の課題として、接遇教育、新人助産師教育、地域包括ケア、特定妊婦支援における地域連携の必要性などが挙げられました。産科管理者交流会は、管理者の悩みや情報交換、意見交換の場となり、顔の見える横のつながりの形成に効果的であったと考えられます。今後も母子支援、よりよい職場環境作りのため、産科管理者交流会を継続していきたいと考えます。



## 母子とその家族のための地域包括ケア研修 オンライン開催

**日程** 令和4年11月19日(土) 13:00～16:00 受講者 69名

今般、特定妊産婦(ハイリスク妊産婦)をはじめ支援が必要な妊産婦の増加を背景に、自治体と分娩取扱い施設、医療機関等の関係機関の連携強化が求められています。周産期医療や地域保健、子育て支援が一体となった切れ目ない母子の支援を行う体制の構築に向けて、看護職として今のような役割を果たしていくのが問われているところです。

令和4年度は、妊娠期から育児期まで様々な立場で母子を支援し活躍しておられる4名の講師をお迎えしたシンポジウム形式で、それぞれの業務の実情と課題等についてお話をうかがいました。

### シンポジウムテーマ ●『困難を抱える母子とその家族のための地域包括ケア』

- シンポジスト・甲木 京子氏(S・ぱ～ぶるリボン 運営委員)
- ・立石 郁子氏(福岡県児童相談所 里親・施設課長)
  - ・梶原 世津氏(九州大学病院 総合周産期母子医療センター母性胎児部門 看護師長)
  - ・松丸 実奈氏(NPO法人にこり 理事長)



DV被害、家族関係の悩みや経済不安、精神・身体的なリスク、予想外の妊娠等、様々な困難を抱える妊産婦について、シンポジスト、受講者それぞれの立場から、支援の実際と連携の方法について意見交換を行いました。

今回の受講者は、助産師、看護師、保健師の他、ソーシャルワーカー等多職種にわたり、様々な立場で担う役割も違う中、「特定妊婦の対応にあたる上で、学びを深めたい」「地域包括ケアの実情を知りたい」等、日頃の業務で対峙する問題について、多角的な視点から学びを深めたいという意欲が強く見受けられました。

また、質疑や研修後アンケートでは、「現場での支援の具体策が見つかった」「地域や関係機関につなぎ、母子と伴走することの大切さが分かった」等、業務上で役立つ知識を身につけることができたという意見や、対象者一人ひとりの背景と現状を知り、家族や友人の協力や地域の社会資源をどのように活かしていくのが課題であるという意見がありました。

改正児童福祉法により、国は、自治体における子ども家庭総合支援拠点と子育て世代包括支援センターで実施している相談支援等の取り組みに加え、マネジメントの強化や、民間団体との連携、多様な家庭環境等に関する支援体制の充実、地域資源の開拓等を押し出しています。

助産師職能委員会では、令和5年度も引き続き『母子とその家族のための地域包括ケアシステム』をテーマに、関係機関の特性や役割、活用可能な資源の共有、地域の実情に応じた連携の在り方等を考えるシンポジウムを開催する予定です。



## 令和4年度 助産師職能委員会

- 【委員長】 長谷川 まどか(福岡大学病院)
- 【副委員長】 金子 仁美(聖マリア病院)
- 【委員】 飯島 紀子(飯塚病院)
- 姫野 たまみ(福岡市東区保健福祉センター)
- 藤木 久美子(福岡大学)
- 川畑 あゆみ(産業医科大学病院)
- 下川 友紀(公立八女総合病院)
- 坪根 友子(福岡市立こども病院)
- 山下 瑞木(福岡徳洲会病院)



# 看護師職能委員会I

## はじめに

看護師職能委員会Iでは、福岡県看護協会の動向と重点事業の活動を委員間で情報共有し、病院で働く看護師・准看護師の課題解決に繋がるように、毎月委員会を開催しています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大から3年が経過しましたが、第8波では多くの病院職員が陽性者もしくは濃厚接触者となりました。病院で勤務する皆様は、最前線でコロナ対応をしながら、一般診療との両立のために大変なご苦勞をされています。令和4年度も収束の見通しが立たない状況でしたが、対面での研修会や交流会を開催し、計画通りに事業を実施することができました。ここに令和4年度の活動を報告させていただきます。

## ● 看護実践ユマニチュード研修/准看護師の進学支援

日程 令和4年7月30日(土) 参加者 22名

テーマ ユマニチュードを学び看護実践に活かす

講師 福岡脳神経外科病院 看護部長/脳卒中看護認定看護師 ユマニチュードチーフインストラクター 杉本 智波先生

テーマ 准看護師の進学支援

講師 専門学校麻生看護大学校 看護科 主任 高橋 洋子先生

### 研修講義

ユマニチュードインストラクターの資格を持つ講師より、「看護実践ユマニチュード」をテーマに、ユマニチュードの「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの柱と、5つのステップとして①出会いの準備 ②ケアの準備 ③知覚の連結 ④感情の固定 ⑤再会の約束など、具体的なケア方法について講義をしていただきました。

参加者からは、「わかりやすく、面白かった」「明日からの看護実践に役立てていきたい」と患者さんと向き合うコツの学びとなったようです。

### 進学説明会

通信制学校の特徴や学習方法、奨学金制度の説明があり、「進学を検討している」「現在進学中」の参加者からは、「具体的な支援方法の説明を受け、良い刺激になり気持ちが高まった」「具体的な内容を知ることができ、役に立った」などの意見が聞かれました。



## ● 特定行為に係る看護師の育成と特定行為に係る看護師の活動の実際

日程 令和4年9月10日(土) 参加者 31名

テーマ 特定行為研修に携わる医師の立場から～看護職に期待すること～

講師 佐賀大学医学部附属病院 医師育成・定着支援センター センター長 江村 正先生

### 実践報告

●「特定行為指定研修施設における院内体制づくり」

福岡市民病院 看護師長 クリティカルケア認定看護師 原 裕次先生

●「はじめての特定行為修了者としての経験」

社会医療法人財団白十字会白十字病院 主任 クリティカル認定看護師 牛島 めぐみ先生

今回の内容は、医師の立場から看護師に期待していること、特定行為研修修了者から活動の実際を報告していただきました。

参加者の多くはこれから特定行為研修を受講しようと考えている方や、特定行為研修修了後に活動方法を模索している方で、会場からの質問も活発な関心の高い研修会となりました。

アンケートでは、「具体的な実践内容を聞くことができ、これからの組織内の体制づくりに活かしたい」「自分の今後の活動について暗中模索状態だったが、今回の講演を聞いて糸口が見つかった」「特定行為研修受講を考えるきっかけとなった」などの意見がありました。

今後も、特定行為研修受講を目指すきっかけと、特定行為研修修了者が、ますます活躍できる場をつくれるように支援していききたいと思います。





# ● 看護管理者研修及び交流会

「地域包括ケアにおける外来看護師役割発揮～多職種連携、タスクシェア・シフト～」を対面で開催

日程 令和4年11月5日(土) 参加者 42名

テーマ 地域包括ケアにおける看護師の役割発揮

講師 日本看護協会 常任理事 鎌田 久美子先生

テーマ 専門資格を持つ外来看護師の役割発揮

講師 福岡赤十字病院 看護師長 慢性看護専門看護師 不動寺 美紀先生

テーマ 救急外来における帰宅時支援で患者さんの生活を支える

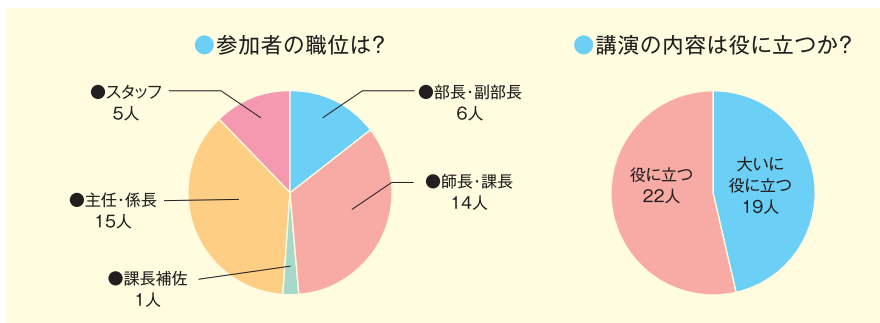
講師 福岡大学筑紫病院 看護師長 認定看護管理者 和田 加代先生



今回、全世代型地域包括ケア時代における、看護職の役割拡大や外来に焦点を当て、多職種連携やタスクシェア・シフトについて交流会を企画しました。

鎌田先生からは、日本看護協会の取組み、外来看護に求められていることなど、日本看護協会が目指していることを具体的に聞くことができました。実践報告として、不動寺先生に慢性看護専門看護師としてのチーム医療の実際について、和田先生に地域へつなぐ医療・看護連携の仕組みづくりと看護管理活動の実際について報告していただきました。

交流会では、各施設が取り組んでいることや、自施設で取り組む課題などについて活発な意見交換が行われました。福岡市や福岡県といった行政で働く看護職の参加もあり、行政との連携を考える有意義な時間となりました。参加者の88%が看護管理者で、アンケートでは「地域へつなぐ、行政との連携の重要性を実感した」「自施設の取り組みの参考になった」「看護の役割を地道に果たしていくことの大切さを学んだ」などの意見があり、全員から「役立つ」と回答がありました。



## おわりに

委員長 松永 由紀子

今後も、現場の声を聴く機会をできるだけ増やし、看護の質の向上に役立つ企画をしてまいります。また、准看護師の皆様には進学支援も継続していきます。これからも当委員会の活動にご協力・ご意見をいただきますようお願い申し上げます。

## 令和4年度 看護師職能委員会I

- 【委員長】 松永 由紀子(医療法人相生会)
- 【副委員長】 樋口 靖子(医療法人社団高邦会 高木病院)  
大松 真弓(産業医科大学病院)
- 【委員】 荒木 頼子(済生会飯塚嘉穂病院)  
後藤 裕子(夫婦石病院)  
佐伯 美穂子(白十字病院)  
白石 由紀(JCHO九州病院)  
平田 美香(新古賀病院)  
的野 修一(栄光病院)  
宮村 聡美(健和会大手町病院)  
森 トシ子(田主丸中央病院)
- 【担当理事】 刈茅 毅英(新古賀病院)



# 看護師職能委員会Ⅱ

はじめに

委員長 宮田 真由美

高齢者と地域のために働くナースたちの看護師職能委員会Ⅱ～ひとりではない つながろう 広げよう 高めよう～

看護師職能委員会Ⅱでは、令和4年度も在宅・介護分野で働く看護師の教育の充実、管理者の組織マネジメント能力の向上、在宅・施設での看取りの推進という目標に添って、「在宅・施設看取り研修」「在宅・施設管理者研修」の二つの研修を企画・実施しました。コロナ禍が続く中、参集しての研修実施は時期によっては難しく、看取り研修はグループワークも含めた完全オンラインとなりましたが、管理者研修は対面で実施することができました。交流企画として顔の見える意見交換の場が設定できて、管理者も少し元気が出る研修になったようで、対面での実施は本当に良かったと思っています。

両研修を無事に実施できたことは、会員の皆様のご協力があったからだと感謝しています。

令和5年度は、ハラスメントの対応マニュアル作成やオンデマンド研修、また、ここ数年計画に上げたもののコロナ感染拡大のため実施できなかった、会員拡大のために皆様の声を直接聞き取り組み企画をぜひ実現させたいと思っています。

令和4年度の取り組みの内容を報告させていただきますので令和5年度もぜひ研修会に参加してください。一日も早くコロナ感染が落ち着き、普通の日常が戻り、皆様が安全に過ごせることを願っています。

## 在宅・施設看取り研修 オンライン研修

日程 令和4年9月10日(土)

参加者 64名

講師 医療法人すずらん会 たろうクリニック 院長 内田 直樹先生



I部は映画「うちげでいきたい」を鑑賞後、グループワークを実施しました。グループワークのテーマは、映画を「娘、息子、孫として観た時の感想」「看護師として観た時の感想」でした。

II部は、看取りについての講義。内容は、①在宅医療なぜ、今在宅医療なのか(実際の症例を交えながら) ②ACPについて(リビングウィル、事前指示書、人生会議など質疑応答も交えながら)でした。

内田先生の『色々な環境があるなか、在宅で看取るということは難しいが、その方に寄り添うことが必要である。病院は病気を治すことが最重要課題だが、在宅では生活を支える為にはどうするかを考える。色々なタイミングで本人、家族の意思を確認することが必要。在宅ではQuality of LifeだけでなくQuality of Deathが大切である』というお話が印象的でした。

アンケート結果(回答者57名。回答率90.5%)では、研修に対する全体の満足度は高く、当研修が実践に役立つかに対して役立つが100%。今回のような研修は必要かに対しても必要が100%でした。また、コロナ禍であることや、移動時間がないのでオンライン研修は助かるが、グループワークは対面の方が進めやすい、という意見もありました。オンラインでのグループワークに慣れていない研修参加者もあり、またアプリの操作が難しかった方もおられ、もっとサポートが必要だったことは反省点です。

映画・講演とグループワークを通して、「事業所で実際に看取り

を行っているため講義を含めたくさん学ぶことができた。職場で活かしていきたいと思う」「患者家族へ伝わりやすい説明と多職種との連携、橋渡しの役割を心がけていきたいと思う」「病院における治療を重視した考え、在宅ではご本人が中心であり、医療、看護などはその手助けを行っていくということを実感した」「認知症の方の動画で『自分で決めたい』という言葉が心に残った。そのような気持ちで接していきたい』等のコメントが寄せられました。

今後の研修の要望については、在宅看取りの疼痛コントロールについて知りたいという意見や緩和ケア、ACPという回答もあり、令和5年度の研修内容の参考にしながら、看取り研修を継続したいと思います。





## ● 在宅・施設管理者交流会

日程 令和4年11月12日(土)

参加者 31名

講師 一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 上野 恵利子先生



### 研修内容

- ① 研修目的目標について
- ② 怒ることのデメリット・メリット
- ③ アンガーマネジメントとは
- ④ 問題となる4つの怒り、私たちが怒らせるものの正体
- ⑤ 「～べき」とうまく付き合うために
- ⑥ 3つのコントロール: 衝撃・思考・行動  
～怒りを数値化し自分の怒りの傾向やパターンを知る
- ⑦ 怒りの再定義と上手なしかり方
- ⑧ 怒り方の悪い例とNGワード
- ⑨ 普段からできるトレーニングと  
上手にしかれる人の真似をして怒りの連鎖を断ち切る

研修は、講義とグループワーク(4人×8グループ)や個人ワークを取り入れる方法で進行了。31名中26名は何らかの発言の機会があり、交流の機会にもなりました。

また、講義の後には20分間という短い時間でしたが、管理者同士の交流の機会として、フリーの意見交換の場を設けました。また、休憩時間にもお互いの施設の話や質問で活発な交流が見られていました。

今回の研修で、怒ることは悪いことではない、後悔しないしかり方や上手なしかり方を学び、感情のコントロールができる(怒りのコントロール)を行い、他者の成長や自分の成長につなげること、それが職場でもよい環境づくりになることなどを学べたと思います。

研修終了後にアンケート記入時間を設けたため、回答率(回答者31名、回答率100%)が高くなり、満足度も高い評価でした。今回は

「良い意見が聞けた。すぐ実践したい内容だった。明日より実践したい」「グループワークが大変楽しく、他病院・施設の好感度が上がった」「多忙な業務に少しでも行動を振り返り働きやすい職場づくりができる」「交流会が良かった。怒りをコントロールできるようにしたい」「同じ立場の方と話す場を設けていただけてよかった」「怒る事、叱る事。自分がストレスを感じないようにしたいと思った」等の意見が聞けました。管理者同士の交流の場を持てたことはとても良かったです。

管理者は、コロナ対応のこと以外にもいろいろなストレスを抱えており、怒りをコントロールしながら勤務されている方がほとんどだと思います。「～べき」と上手に付き合い、怒りをコントロールしていく講義、また意見交換で元気になれたと多くの声があり、次年度も管理者が元気の出るような職場づくりに関する研修を企画できればと考えています。



### トピックス

- 令和4年8月30日に福岡県介護老人保健施設協会筑後ブロックからの依頼を受けて、冊子「施設看取りあれこれ」を活用した看取りの研修を実施しました。
- 令和5年度に、在宅・施設におけるハラスメント対応マニュアルについて、冊子の作成及びオンデマンド研修を企画します。

### 令和4年度 看護師職能委員会Ⅱ

- 【委員長】 宮田 真由美(社会医療法人親仁会ケアプランセンター)
- 【副委員長】 高岸 珠美(介護老人保健施設西寿)
- 【委員】 下口 真由子(暖家の丘訪問看護ステーション)
- 西尾 美登里(個人会員)
- 福田 和枝(特別養護老人ホームいちご)
- 高島 幸子(介護老人保健施設ささぐり浜江苑)
- 木村 みどり(福岡県粕屋保健福祉事務所)
- 野田 里衣(香住ヶ丘リハビリ訪問看護ステーション)
- 牧之瀬 一二三(介護老人保健施設あけぼの苑)



# 令和5年度職能委員会企画研修・交流会

研修番号	研修・交流会名	開催期間	内容等	応募要件 注意事項	応募期間
—	新型コロナウイルス感染症等業務にかかる研修 (IHEAT研修) 【福岡県委託】	8/5(土)	<p><b>内容</b> 保健所への業務支援を円滑に行えるように、新型コロナウイルス感染症に関して最新の科学的知見に基づいた知識や技術を習得する</p> <p><b>対象</b> IHEAT登録者、登録予定者、市町村保健師等</p> <p><b>定員</b> 100名</p>		
074	<b>NEW</b> 新任期保健師交流会	9/23(土) 午後 ※日程が変更になりました	<p><b>内容</b> 地域に根付いた保健活動の実践～先輩保健師からのメッセージ～/交流会</p> <p><b>定員</b> 50名</p> <p><b>受講料</b> 会員/非会員1,000円</p>	保健師経験5年目までの者等	6/1(木)～ 8/3(木)
055	『保健師・助産師職能合同企画』 母子とその家族のための地域包括ケア	11/26(日) 午後	<p><b>内容</b> シンポジウム 「第2回 困難を抱える母子とその家族のための地域包括ケア」</p> <p><b>定員</b> 80名</p> <p><b>受講料</b> 会員2,090円 非会員5,060円 学生1,000円</p>		8/24(木)～ 10/24(火)
001	院内助産スキルアップ研修	【1日目】 5/28(日) 【2日目】 6/10(土) 【3日目】 6/25(日)	<p><b>内容</b> 心理・社会的問題のある妊婦支援/妊産婦の食生活/フリースタイル分娩/助産師のコアコンピテンシー・キャリア開発</p> <p><b>定員</b> 40名</p> <p><b>受講料</b> 会員12,210円 非会員30,690円</p>	助産師経験3年以上の者	3/15(水)～ 4/27(木)
017	新人助産師研修	【1日目】 7/22(土) 【2日目】 8/ 5(土) 【3日目】 8/19(土) 【4日目】 9/ 2(土)	<p><b>内容</b> CTG/母体合併症/産科出血/新生児フィジカルアセスメント/乳房・授乳/正常分娩助産診断・分娩助産演習/助産の起源・倫理・哲学</p> <p><b>定員</b> 40名</p> <p><b>受講料</b> 受講料: 会員16,280円/非会員40,920円</p>	助産師経験3年目までの者	5/12(金)～ 6/22(木)
075	産科管理者交流会	1/27(土) 午後	<p><b>内容</b> 講演 「母子のための地域包括ケア推進に向けて」/交流会</p> <p><b>定員</b> 40名</p> <p><b>受講料</b> 会員2,090円 非会員3,080円</p>	産科管理を実践している助産師・看護師	10/16(月)～ 12/25(月)
013	准看護師の進学支援	7/8(土) 午後	<p><b>内容</b> レポートの書き方/准看護師進学支援/准看護師交流会</p> <p><b>定員</b> 40名</p> <p><b>受講料</b> 会員2,090円 非会員5,060円</p>		4/10(月)～ 6/9(金)
036	特定行為研修	9/16(土) 午後	<p><b>内容</b> 特定行為研修修了者の実践報告、在宅での活動・病院での活動/管理者の立場から、人材育成と活動支援</p> <p><b>定員</b> 100名</p> <p><b>受講料</b> 会員2,090円 非会員5,060円</p>		6/19(月)～ 8/18(金)
052	看護管理者研修及び交流会 「タスクシェア・シフトの推進」	11/11(土) 午後	<p><b>内容</b> タスクシェア・シフトに関するガイドラインの活用/検査技師の立場から、採血業務のタスクシェア・シフト/看護補助者との協働</p> <p><b>定員</b> 50名</p> <p><b>受講料</b> 会員2,090円 非会員5,060円</p>	主任以上の看護管理者	8/14(月)～ 10/13(金)
031	在宅・施設看取り研修	9/9(土) 午後	<p><b>内容</b> 在宅・施設での看取りに関わる看護職間の情報共有/ACPや緩和ケアなどを中心とした連携の推進</p> <p><b>定員</b> 100名</p> <p><b>受講料</b> 会員・非会員990円</p>	在宅・介護施設・診療所に勤務する者	6/9(金)～ 8/15(火)
061	在宅・施設管理者研修及び交流会	1/13(土) 午後	<p><b>内容</b> 在宅・施設管理者のマネジメント力向上/元気が出る職場づくり/交流会</p> <p><b>定員</b> 50名</p> <p><b>受講料</b> 会員・非会員990円</p>	在宅・介護施設・診療所の看護管理者・リーダー等	10/13(金)～ 12/12(火)

## 令和5年度 福岡県看護協会 合同職能集会 ※参加申込不要

- ◆ テーマ: 求められる看護～国際看護の視点から～
- ◆ 講師: PMS総院長補佐・PMS支援室室長・ベシャワール会理事 藤田 千代子 氏
- ◆ 日時: 令和5年6月17日(土) 15:50～16:55
- ◆ 会場: アクロス福岡シンフォニーホール 福岡県看護協会通常総会後、同会場にて行います

研修の開催状況は随時更新しておりますので、福岡県看護協会ウェブサイトをご確認ください。 <https://fukuoka-kango.or.jp/>

